

バス事故発生から40年を迎えた追悼式で、犠牲者を悼み手を合わせる生存者の香山久子さん。28日、長野市で(森重裕紀撮影)



祈る 亡き若者の未来思い

日福大スキーバス事故40年

1985年1月、スキー実習に参加する日本福祉大(愛知県美浜町)の学生らに乗せ、長野県北部に向かっていたバスが長野市の犀川ダム湖に転落し、25人が死亡した事故は28日、発生から40年を迎えた。惨事を振り返る行事が開かれ、遺族や大学関係者が犠牲者の冥福を祈った。 **関連②面**

事故現場近くで営まれた追悼式には、生存者の香山久子さん(59)と埼玉県蕨市から25人が参列した。同大3年の吉沢実優さん(21)は現場を初めて見たといい「未来があったはずの人たちが命を亡くしたことが悔しい」と涙をこぼした。事故は午前5時45分ごろ発生し、三重交通のバスが国道19号のカーブを曲がりきれずダム湖に転落。学生22人と教員1人、乗務員2人が死亡した。